

FY25 1Q決算サマリー説明資料



株式会社インターネットイニシアティブ（IIJ）
プライム市場（証券コード：3774）
2025年8月7日

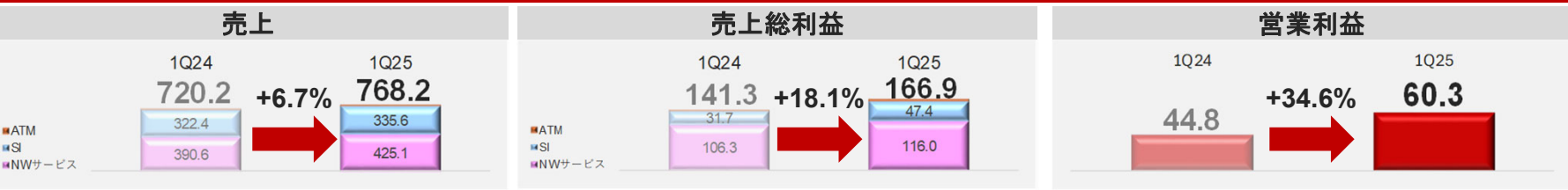
事業等のリスク

本資料の記載のうち、過去または現在の事実に関するもの以外は、将来の見通しに関する記述に該当します。将来の見通しに関する記述は、現在入手可能な情報に基づく当社グループまたは当社の経営陣の仮定及び判断に基づくものであり、既知または未知のリスク及び不確実性が内在しています。また、今後の当社グループまたは当社の事業を取り巻く経営環境の変化、市場の動向、その他様々な要因により、これらの記述または仮定は、将来実現しない可能性があります。

1. 1Q25決算概要

単位: 億円
+%, YoY = 前年同期比
当期利益は親会社の所有者に帰属する利益を表示

NWリプレイス需要 更に活況 メガバンク向け含み大型案件複数獲得
1Q売上・利益 計画通り進展 高増益スタート



- NW サービス (除くモバイル)**
 - ◆ 1Q25売上: 295.1億円・+9.1%YoY IP: +9.5%YoY、アウトソーシング: +13.7%YoY (うちセキュリティ: +11.2%YoY)
 - ◆ 今期ストック売上積み上げ強化に向け既存サービスのエンハンス・ソリューション化を推進
 - 「IIJフレックスモビリティサービス/ZTNA」Webセキュリティ機能強化 (25年6月)、容易に脱PPAP₁を実現する「mxHERO with IIJ」提供開始 (25年7月) 等
- モバイル・IoT**
 - ◆ 1Q25売上: 130.1億円・+8.3%YoY 1Q25末総回線数: 577.2万・+74.8万YoY
 - ◆ MVNOトップシェアでMVNEも優位展開 MVNE顧客数 1Q24末: 195社→1Q25末: 202社 JALモバイル (25年4月提供開始) 等で個人向け回線数+6.1万YoY
- SI**
 - ◆ 1Q25売上: 335.6億円・+4.1%YoY うち構築: 116.9億円・△7.3%YoY、運用保守: 218.7億円・+11.4%YoY
 - 運用保守 (ストック売上) が大幅伸長、構築は受注残状況より想定通り推移 (期末受注残 4Q24末: 158.1億円、4Q23末: 237.6億円)
 - ◆ 1Q25受注: 453.2億円・+12.9%YoY うち構築: 170.7億円・+12.8%YoY 運用保守: 282.4億円・+12.9%YoYと双方で活況
 - ◆ 毎期初に工数販売単価見直し 人件・外注費の変化に対応
- 大型案件₂の動向**
 - ◆ 獲得推移
1Q24 期間総額 約60億円 → 1Q25 約75億円
メガバンク向けグローバルNW構築案件 (5年・55億円) 内包
十億～百億円超の潜在パイプラインも進行中
 - ◆ 売上推移 (3ヶ月)
1Q24 一時 約7億円 月額 約10億円 → 1Q25 約5億円 約30億円
- 事業トピックス**
 - ◆ 期変わり費用増にて従前利益伸長弱傾向の1QでVMwareライセンス反動増含め高増益
 - ◆ 新経営体制にて始動 従来戦略のエンハンス・アウトプット強化 中期計画に沿い展開
 - ◆ 中長期での設備収容スペース安定確保のため自社保有DC拡張 白井: 3期棟建設着工 (25年6月)・FY26稼働開始予定 松江: 新棟稼働開始 (25年6月)
 - ◆ 人的資本の継続強化 新卒入社 269名 (25年4月)・報酬改定 (単体昇給率 約6%)・FY25連結従業員純増計画: 約440名
 - ◆ セキュリティインシデント₃の再発防止徹底 サービス設備の振る舞い検知強化・WAFの多層化完了、社長直轄プロジェクトで全サービスの更なるセキュリティ高度化推進

(※1) パスワード付きZIPファイル送信後に開封パスワードを別送するメール送信手法 (※2) 大型案件獲得金額はNWサービス分含むで記載 (※3) 適時開示25年4月15日「IIJセキュアMXサービスにおけるお客様情報の漏えいについて」及び4月22日「IIJセキュアMXサービスにおけるお客様情報の漏えいについてのお詫びとご報告」をご参照
© Internet Initiative Japan Inc.

2. IJセキュアMXサービスにおけるお客様情報の漏えいについて - 再発防止策 -

再発防止に向けて
セキュリティ対策および監視体制のさらなる強化について実装が完了

検知

振る舞い検知の強化

25年6月26日(土)実装完了

防御

Webアプリケーションファイアウォール

多層化

25年7月23日(水)実装完了



サービス全体のセキュリティ強化を目的に社長直轄プロジェクトを発足(25年6月)

社長直轄プロジェクト

必要な対策を継続的に推進

プロジェクトはFY25中に計画策定、FY26にて計画実行予定(FY25中に実行可能な取組については速やかに順次対応)

※総務省の行政指導(25年7月18日)を踏まえ、こうした取組を業界全体の将来的なサイバーセキュリティ水準の向上へも発展させていく。

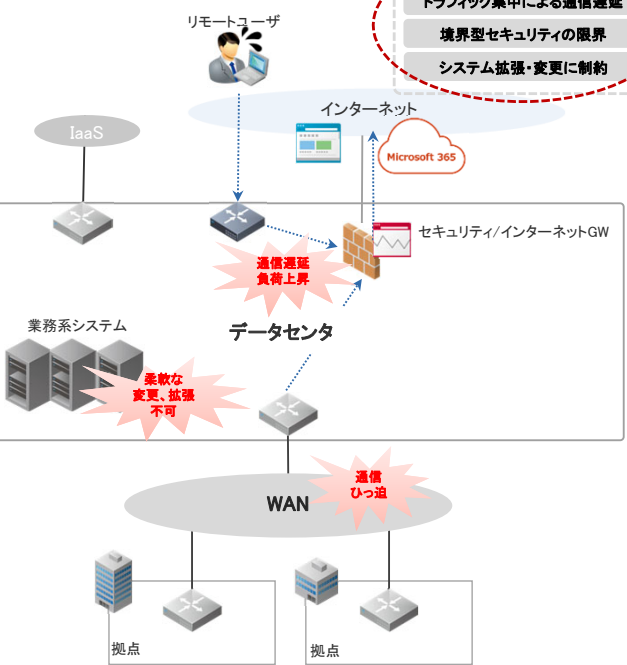
3. ネットワークの構造転換と当社の成長機会

柔軟なサービス提供で時代と共に変化する企業ネットワーク更改需要を取り込み

旧来型(コロナ前)

オンプレ中心の重厚なシステム構成が抱える問題が顕在化

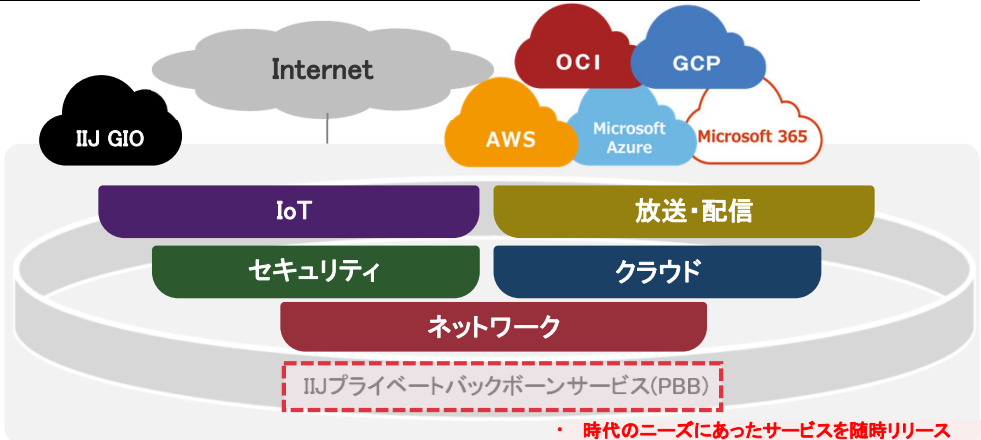
- 旧来型NW・システムの課題
- トラフィック集中による通信遅延
- 境界型セキュリティの限界
- システム拡張・変更に制約



新システム(コロナ以降)

クラウドシフトやサイバー攻撃の高度化に対応したNW・システム構成の見直しが加速
NW・システムの全面刷新に波及するケースも多く、案件も大型化

～クラウドシフト・ゼロトラストに最適化された次世代ネットワーク基盤をサービス提供～



- 時代のニーズにあったサービスを随時リリース
- 常時最新のトレンドを踏まえたサービス開発が進行
- 改修や新機能のリリースも実施
- 緊くだけで、企業のITインフラに必要な機能を提供



4. IIJが考えるデータ連携基盤（イメージ図）

既存リソースをフル活用、エンハンスしながら将来的にデータ流通領域でのビジネスを見据える



5. IoTビジネスについて

「つなぐ力」と「データ活用力」で支える実践的IoTビジネスを展開

これまで → これから

IoTに最適化したサービスをワンストップで提供

モノや現場をデータ化しビジネスを強力に支援

支援領域

製造業 農業 建設業 環境 物流



創業時から培ったネットワーク技術をベースに様々な業種業界の課題解決を支援

パートナーとの協業

村田製作所
三菱HCキャピタル

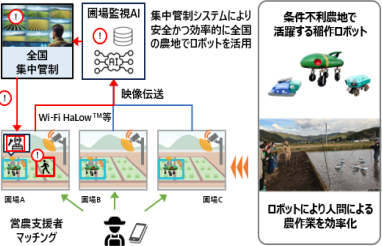
IIJのインフラ × パートナーの業界知見や現場力で、IoT・データ活用を社会実装

※上記企業名は一例

国、自治体プロジェクトでの確かな実績

総務省 地域社会DX推進パッケージ事業に採択 (2025年7月)

デジタル実装加速化プロジェクト「トライアングルエヒメ」に3年連続で採択 (2023-25年度)



国場監視AI 集中管制システムにより安全かつ効率的に全国の農地のロボットを活用

条件不利農地で活躍する耕作ロボット

映像伝送

Wi-Fi HaLow™等

現場A 現場B 現場C

営農支援者 マッチング

ロボットにより人間による農作業を効率化

農業ロボットや無線、AI等先端技術を活用した省力化稲作支援サービスの実証プロジェクト (宮城県、福岡県、神奈川県)

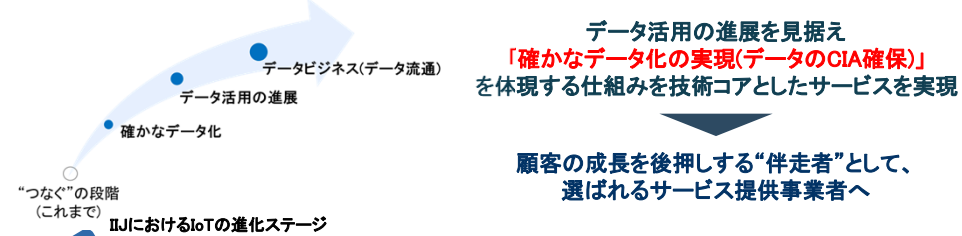
TRY ANGLE EHIME

トライアングルエヒメ

中晩柑、サトイモを対象とした土壌水分の可視化及び灌水の最適化による品質・収量の安定化に向けたスマート農業の実装 (愛媛県)

AI等先端技術を利用した現場起点のデータ利活用基盤へ

“つなぐ”の提供から“データ化”の提供へ



新規リリース IIJセンシングデータマネジメントサービス(25年7月)

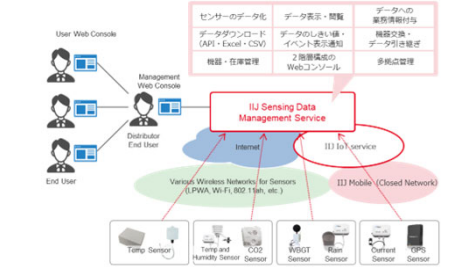
個別構築が必要だったセンシング環境を、**共通化されたサービス**として提供し、要件定義や構築の時間・コストを削減

注目要素

センシングデータ活用 手間なくセンシングデータを活用

計測業務自動化 デジタル化 手入力から管理業務効率化へ

業務改善・品質向上 温度管理や環境測定などセンシングデータを活用した各種改善



地域のくらしを支え、つなぐデータプラットフォーム

これまで



これから

医療・福祉の現場をつなぐ、情報共有ツール

導入実績

導入行政・地域

76 行政・地域
(10都道県)

患者/支援対象者数
(子ども～高齢者・災害時要援護者)



約59,000人

広域連携した行政



54行政(3県 10圏域)
愛知県 49行政/長野県 3行政/三重県2行政
広域連携協定

利用専門職

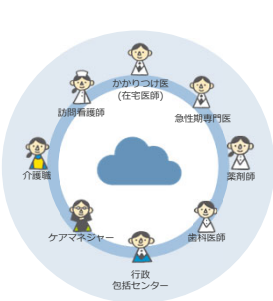


27,000人以上
30職種以上

更なるデータの連携・活用で地域課題の解決を支援

スマートシティを実現するプラットフォームサービス

地域の専門職が
共通IDを取得



地域包括ケア
重層的支援

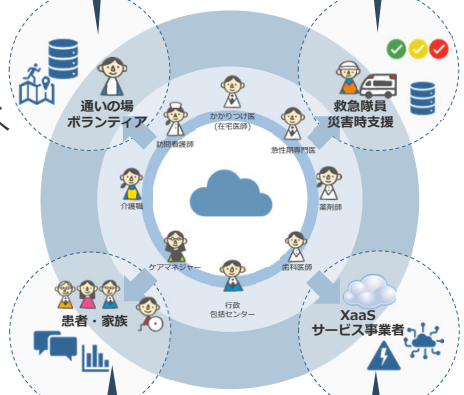
地域資源連携
(通いの場・避難所)

救急連携
災害時安否確認

連携した人(ID)
とデータを連携し、
地域課題の解決へ



スマートシティ
を実現する



患者家族連携
(PHR)

データ連携利用
(IoT・オープンデータ)

「防災」「救急」「教育」等、他の領域に活用領域を拡大

7. クラウドデータプラットフォーム(CDP)について

あらゆる環境のデータを安全に利活用し、お客様ビジネスに貢献

これまで

多様なデータ連携に対応する柔軟なクラウドサービス

CDPの主な特徴

できること



オンプレミスとクラウドをつなぐハブとして「簡単・セキュア・低コスト」にデータ連携を実現

豊富な連携先



オンプレミスやクラウドにおける豊富な接続先を用意(順次拡大中)

90種類以上

安心のマネージドサービス

ASTERIA Warp

OS

サーバ

ネットワーク

一気通貫で提供

マネージドサービス提供
インフラ運用保守はIIJにお任せ

採用エンジン



データ連携機能には、国内で有数の実績を持つアステリア社「ASTERIA Warp」をコアエンジンとして採用



これから

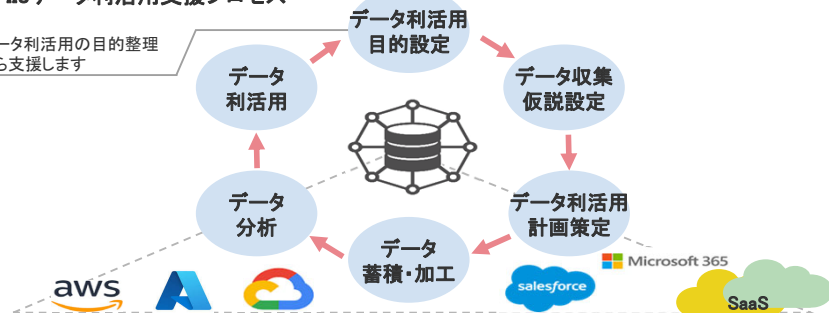
データ利活用の起点となる構想フェーズから共創

新規リリース

IIJデータ利活用ソリューション(25年8月)

IIJデータ利活用支援プロセス

データ利活用の目的整理から支援します



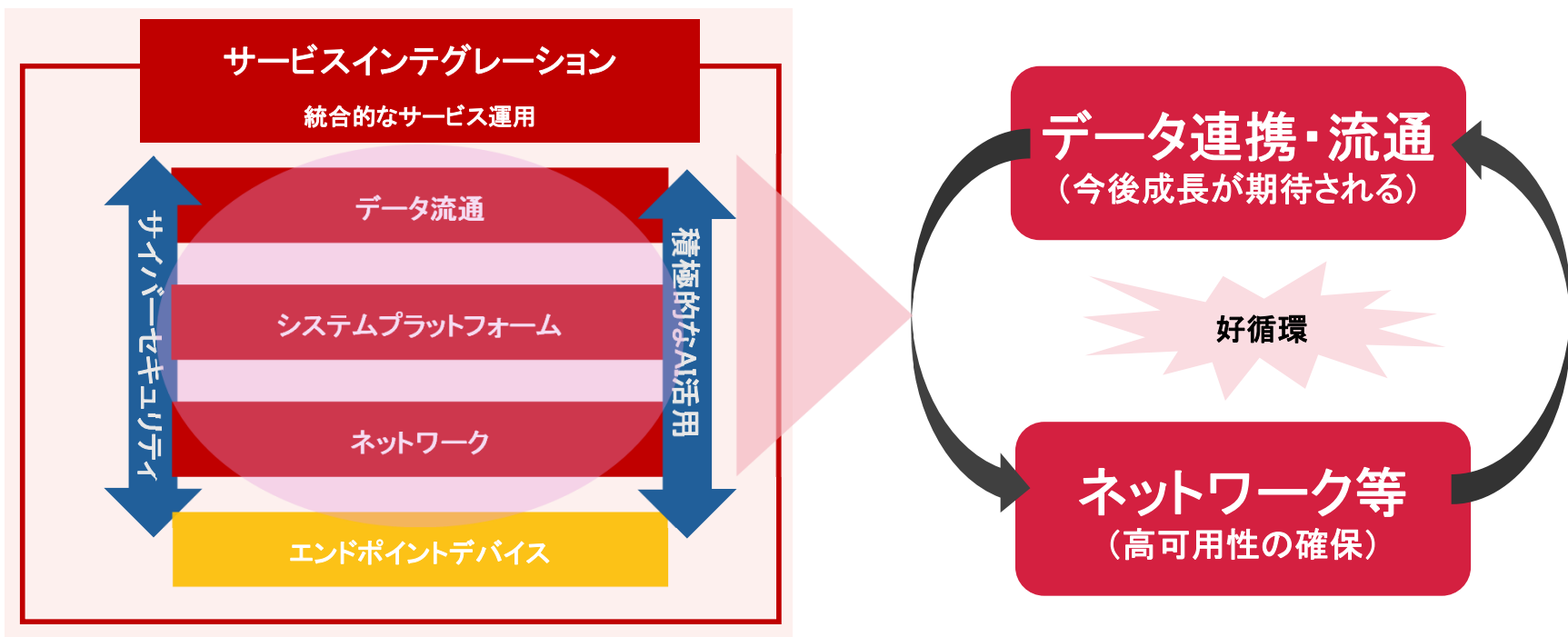
Point

- ・分散した社内データや、機微なデータを安全に収集し、活用できる環境を提供
- ・IIJのクラウド、セキュリティ、ネットワークサービスやインテグレーションの組合せで実現



8. まとめ

“つなぐ”技術を、“活かす”力へ。IIJコア技術との好循環





日本のインターネットは1992年、IIJとともにはじまりました。以来、IIJグループはネットワーク社会の基盤をつくり、技術力でその発展を支えてきました。インターネットの未来を想い、新たなイノベーションに挑戦し続けていく。それは、つねに先駆者としてインターネットの可能性を切り拓いてきたIIJの、これからも変わることのない姿勢です。IIJの真ん中のIはイニシアティブ

IIJはいつもはじまりであり、未来です。